令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【太田小学校】

① 今年度の課題と学力向上策

	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 国語においては文章の構成、算数においては四則演算、グラフの読み取りなど他教科にも関わる学習内容に課題がある。 ＜指導上の課題＞ これらの領域の学習内容を身に付けるための学力向上タイム等の活用	⇒	学習の様子によっては、前学年の内容を振り返ることも視野に入れるなどの学習活動の工夫をする。学習が苦手な児童の学習が定着できるような支援、声かけを通年を通して取り組む。基礎学力向上タイムを効果的に行えるよう内容、学習形態の計画をする。【月に1度】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 何のためにこの勉強をするのかという学習めあてを意識した振り返りを適切に行う。 ＜指導上の課題＞ 学習者が常に学習のめあてを念頭におきながら学ぶことができるような授業を進めるための授業研究	⇒	思考が単純なもので留まらないよう、学習中にもめあてに振り返るような声をかけることで思考を深める経験を学習の中で積ませる。また、それらを踏まえた振り返りの時間を設ける。【毎時間3分程度実施】 市教委の研修における教職員研修の活用【7月下旬】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語では、読み取った情報を活用することに課題が見られた。読み取った情報の活用は、他教科でも必要な能力となるので、教科横断的な指導が一層求められる。漢字や言葉に関するもの、主語述語にも課題が残るので、朝読書等を活用し、活字にも親しませていきたい。算数に関して、基本的な四則演算は定着が必要である。特に、小数、分数については数のしくみをよく理解させたうえで、計算に挑戦できるようにしていくことで、考えの表現も進むのではないか。また、既習の学習内容をどのように生活で活用していくのかを身に付けさせるために、日常生活に即した問題場面を考えたり、日常生活で実際に学習内容を活用させる活動が必要である。
思考・判断・表現	国語では、書くこと、読むことに大きな課題が残る。問題形式を見ると、記述式は県・全国平均と比べると、特に課題があるように見受けられる。自分の考えを書く、友達の考えを知る、自分の考えを見直すなどの活動を意識的に取り入れると効果があるかもしれない。記述式の問題に対して、平均より無解答率が高めであった。まずは書いてみる指導を継続したい。 算数も同様である。記述式の問題は、国語に比べても無解答率が高かった。短答式の問題であっても、無解答率が高かったので、まずは自分の考えを書いてみるという姿勢を指導継続していきたい。また、ノート等への表現のしかたを身に付ける必要がある。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学力向上タイムに関しては、各学年、児童の実態に即し、実施できている。 2学期以降も継続して実施する。	変更なし
思考・判断・表現	B	振り返りの活用は、授業の学習内容にもよるが、継続的に行っている。 夏季休業中に、学校の実態に即した教職員研修を実施した。 2学期以降も継続して実施する。	①に示す年度当初の学力向上策に加え、「夏季休業中の研修を踏まえた教材研究」を行い、学習を進めていく。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語では、漢字の習得や文章の構造について課題が見られる。主語や述語、修飾語、被修飾語といったものの理解において市平均を下回る数値が目立っている。 読むことに関する問題でも誤答、市平均との差が目立つ。これについては、読書量や読書の習慣が市平均よりも大きく下回っていることも関係があるかもしれない。 算数では、分数や小数を含む四則演算や用語の定義等の課題が見られる。図形の定義についても、正しく理解ができていない様子が全学年において見られた。
思考・判断・表現	グラフの読み取りについては、1つだけのグラフも複数のグラフの読み取りのどちらについても市平均を下回る数値が目立った。読み取りだけでなく、グラフに表すことやグラフにある2つの数量関係を式に表すことも含め、データの活用、数量関係への課題が顕著であった。 全学年、4教科を通して、考え方を説明することに課題がある。なぜそう考えたのか、どの資料を基にしてどのような思考をしたのかを表現することに課題が見られた。知識・技能での定着が不確かなことが、資料から読み取ったことや自分の考えを表現することの妨げになっている可能性も大きい。

⑤ 学力向上策の実施状況

	評価（※）	
知識・技能	B	学力向上タイムに関しては、各学年、児童の実態に即し、実施できていた。 プリントの活用やL-GateのMEXCBTの問題配信の活用など実態に合わせた取り組みができた。
思考・判断・表現	B	授業での振り返りは、意識して行うよう心掛けた。児童も、振り返りとして学習内容を表現することに慣れてきている。夏の教職員研修も通し、学力向上タイムの行い方についても考えていくことができた。毎週の校内研修でも、教職員の実践の意見交換を行い、授業展開や指導法を深めることができた。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と学力向上策

知識・技能	基本的な漢字の定着や主語、述語、修飾語といった知識をきちんと身に付けるための時間を確保したい。また、読むことや文章の構成への理解を深めるために、読書の時間の確保、指導もできるとよい。 そのために、次年度は学力向上タイムを増やしたり、第1学年から第4学年に習熟の時間を設定し、学習の定着に力を入れられる時間を設ける。読書指導などにも活用できる時間とする。
思考・判断・表現	教科による必要な用語の定着を確実に行うことで、思考・判断・表現への向上にもつながるであると考えられる。 まず、知識・技能の向上に力を入れていくことで、それに伴って向上する「思考・判断・表現」が存在すると考えている。引き続き、振り返り等の活用で表現する活動を授業内に取り入れる授業展開を進めていく。